

# 『薬物乱用防止教室-1年』風景

平成31年1月15日

## 【薬物乱用防止教室とは】

学校において、薬物乱用の危険性を熟知している警察職員、学校医、学校薬剤師等の協力を得て、薬物に対する正しい知識や乱用の恐ろしさについて指導する教育活動です。

今回は、「鹿児島ダルク」から3名の方々に来ていただき、様々なお話をさせていただきました。



私は、昨日の話を聞いて、改めて薬物を使うと危険だということが分かりました。話の中で一番驚いたことは、たばこやお酒、ビールも「薬物」の一種だということです。

私は、「薬物依存症」のAさんとBさんの話を聞いて思ったことがあります。それは二人とも何らかの理由があって「薬物」に手を出したことが、今では、「薬物」に手を出したことを後悔していることです。

私は、今回の「薬物乱用防止教室」の話を踏まえて、「覚せい剤」などの薬物には手を出さない。「たばこ」「お酒」等にも手を出さないという事を考えました。

私は、薬物を乱用するのは外国だけのことだと思っていました。日本にも薬物で苦しんでいる人がいることを知ることができました。薬物は、生活する上でとても身近にあり、一回使ってしまうと、「次こそ最後」と思いながらも使用してしまう、とても怖いものだと知りました。最初はどうもなくても、薬がないと当たり前に行える事ができなくなることも知りました。

二人の話を聞いて、最初は興味があって使ったけど、後々苦しい思いをするのは自分で、周りの人にも迷惑をかけてしまうこともあると思います。ストレスが溜まって薬物乱用ではなく、人に相談して薬物乱用をしないようにしたいです。



私はこの話を聞いて「あと1回だけ」や「やめようと思えばいつでも止められる」等の自分に甘い言葉はだめだと思いました。「あと1回だけ」は、その言葉を何回も使ってしまい、薬物依存症になるんだなと思いました。

でも、この言葉は、薬物だけでなく、私たちがよくするものにも共通すると思います。例えばゲーム、大人だったらアルコールやたばこもあります。私たちは、いつも依存症が近くにいます。でも、依存症にならないように気をつけたいです。そして、友だちがアルコールやタバコに手を出そうとしていたら「よく考えてみて」と言って止めてあげたいです。

私はこの話を聞いて、薬物は怖いなあと感じました。使っているいいことは一つもないし、悪い事しかないなと思いました。

私は、2人の体験談を聞いて、すごく苦しかっただろうな思いました。「薬がないと何もできない。」と言われた時本当にびっくりしました。

「薬物」と簡単に言ったり、聞いたりしているけど、とても怖くて、恐ろしいものなんだと思いました。

だから、絶対に使ってはいけないと思います。1回使っただけで、人生が最悪になってしまうと思うので、薬物には絶対に手を出さず、いい人生が送れるようにしたいです。

